

出来形管理基準及び規格値 第21編 管路・畑かん施設編

●：出来形管理図表を作成する。

△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

単位：mm

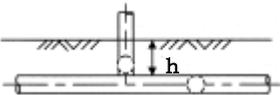
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
21 管路・畑かん施設編	1 管路・畑かん施設	4 管基礎工	2		砂基礎工	高 さ h	● ±30	1. 施工延長おおむね50mにつき 1ヶ所の割合で測定。 2. 上記未満は 2ヶ所測定。	<p style="text-align: center;">$h = V2 - V1$</p>	21-1-4-2 基礎材が異なる場合は、種類毎に測定する。 高さ(h)の管理はV2V1で算出するものとする。
						幅 w 1 ~ w 2	● -100			
21 管路・畑かん施設編	1 管路・畑かん施設	5 管布設工	2		硬質塩化ビニル管工	基 準 高 ∇	● ±50	1. 施工延長おおむね50mにつき 1ヶ所の割合で測定。 2. 中心線のズレ（曲線部）については施工延長おおむね10mにつき 1ヶ所の割合で測定。 3. 上記未満は 2ヶ所測定。		21-1-5-2
						埋 設 深 h	● -50			
						中心線のズレ e	● ±120			
						施 工 延 長 L	延長200m未満 △-200 延長200m以上 △-0.1%			
21 管路・畑かん施設編	1 管路・畑かん施設	5 管布設工	3 4		強化プラスチック複合管工 ダクタイル鋳鉄管	基 準 高 ∇	● ±30 被圧地下水がある場合 ● ±50	1. 施工延長おおむね50mにつき 1ヶ所の割合で測定。 2. 中心線のズレ（曲線部）については施工延長おおむね10mにつき 1ヶ所の割合で測定。 3. 上記未満は 2ヶ所測定。 4. ジョイント間隔については、1本ごとに測定。	<p style="text-align: center;">基準高(∇)は、管底、管頂のいずれか一方を測定し管理する。</p>	21-1-5-3 21-1-5-4 基準高の測定は管底を原則とし、測定時は埋戻しとする。ただし、φ1,350mm以下は管底での測定作業が困難な場合は、管頂まで埋戻し後の管頂でもよい。eの測定は管頂まで埋戻し時の管頂を原則とする。 なお、「埋戻し完了」とは、特に指示がない場合は舗装（表層、上層路盤下層路盤）を除いた埋戻し完了時点とする。
						中心線のズレ e	● ±100			
						施 工 延 長 L	延長200m未満 △-200 延長200m以上 △-0.1%			
						ジョイント間隔 Z	別表ア及び別表イ参照			

出来形管理基準及び規格値 第21編 管路・畑かん施設編

●：出来形管理図表を作成する。

△：設計図等を使用し設計寸法と比較対照出来るように整理

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
21 管路 ・ 畑かん 施設 編	1 管路 ・ 畑かん 施設	7 畑かん 施設 工	4		散水器具工 (スプリンクラー)	埋 設 深 h	● -50	構造図の寸法表示箇所を測定。		21-1-7-4

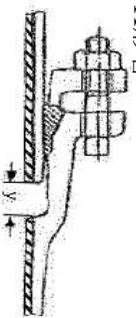
別表ア 管水路(ダクタイル鑄鉄管)ジョイント間規格値

(単位: mm)

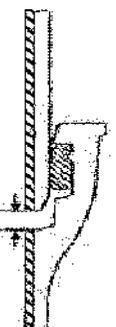
規格	K 形		U 形		T 形(直管)		T 形(異形管)	
	規格値	標準値	規格値	標準値	規格値	標準値	規格値	標準値
75	+19	0	-	-	+16	0	+16	0
100	+19	0	-	-	+16	0	+17	0
150	+19	0	-	-	+16	0	+18	0
200	+19	0	-	-	+14	0	+16	0
250	+19	0	-	-	+14	0	+14	0
300	+19	0	-	-	+24	0	-	-
350	+31	0	-	-	+24	0	-	-
400	+31	0	-	-	+24	0	-	-
450	+31	0	-	-	+24	0	-	-
500	+31	0	-	-	+30	0	-	-
600	+31	0	-	-	+30	0	-	-
700	+31	0	105	105	+30	0	-	-
800	+31	0	105	105	+30	0	-	-
900	+31	0	105	105	+40	0	-	-
1,000	+36	0	105	105	+40	0	-	-
1,100	+36	0	105	105	+40	0	-	-
1,200	+36	0	105	105	+50	0	-	-
1,350	+36	0	105	105	+50	0	-	-
1,500	+36	0	105	105	+60	0	-	-
1,600	+40	0	115	115	+70	0	-	-
1,650	+45	0	115	115	+70	0	-	-
1,800	+45	0	115	115	+80	0	-	-
2,000	+50	0	115	115	+90	0	-	-
2,100	+55	0	115	115	-	-	-	-
2,200	+55	0	115	115	-	-	-	-
2,400	+60	0	115	115	-	-	-	-
2,600	+70	0	130	130	-	-	-	-

- 注) 1. 規格値は埋戻し後の値であり、原則として4ヶ所のうち1ヶ所でもこの値を超えてはならない。
2. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合には、管の外から確認してもよい。また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径800mm以上に適用する。
3. ダクタイル鑄鉄管のうちK形管・T形管のジョイント間隔測定位置及びU形管の標準値は下図のy寸法である。yの測定位置は、鑄鉄層とモルタルライニング層の境界部を目安とする。

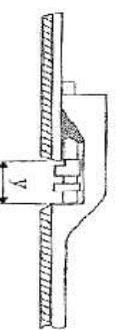
K形管



T形管



U形管



別表イ 管水路(強化プラスチック複合管)ジョイント間隔規格値

(単位:mm)

規格	JISA5350				
	B形、C形及びT形				
	標準値	規格値			
良質地盤		軟弱地盤			
呼び径(mm)					
200	0	+33	0	+22	0
250	0	+33	0	+22	0
300	0	+38	0	+25	0
350	0	+38	0	+25	0
400	0	+43	0	+28	0
450	0	+43	0	+28	0
500	0	+53	0	+35	0
600	0	+53	0	+35	0
700	0	+53	0	+35	0
800	0	+53	0	+35	0
900	0	+53	0	+35	0
1,000	0	+53	0	+35	0
1,100	0	+53	0	+35	0
1,200	0	+53	0	+35	0
1,350	0	+53	0	+35	0
1,500	0	+53	0	+35	0
1,650	0	+80	0	+53	0
1,800	0	+80	0	+53	0
2,000	0	+95	0	+63	0
2,200	0	+95	0	+63	0
2,400	0	+113	0	+75	0
2,600	0	+113	0	+75	0
2,800	0	+128	0	+85	0
3,000	0	+128	0	+85	0

- 注) 1. 規格値は埋戻し後の値であり、原則として4ヶ所のうち1ヶ所でもこの値を超えてはならない。
 2. 測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合には、管の外から測定してもよい。また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径800mm以上に適用する。
 3. 継手部の標準断面は下記のとおりであり、標準値は図の寸法である。なお、基準線に対し抜け出し側を(+)とする。

